

# スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援事業における新重点枠区分（高大接続枠）（別紙2）

「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)支援事業の今後の方向性等に関する有識者会議報告書」(平成30年9月公表予定)を踏まえ、高大接続による一貫した理数系トップレベル人材育成プロセスの開発・実証を支援するため、重点枠の支援区分として、新たに「高大接続枠」を設ける。

## 高大接続枠 ～高大接続による一貫した理数系トップレベル人材育成プロセスの開発・実証～

### 高校の動向

- 生徒に身に付けさせるべき資質・能力を明確化し、その育成・評価の結果を高校から大学に積極的に示す動きや、大学と共同で資質・能力を設定して育成・評価を行おうとする動き  
例：SSH8校による「探究型学力高大接続研究会」

### 大学の動向①

- 大学で身に付けるべき資質・能力や育成を目指す人材像を明確化する動き  
例：「理工系人材育成に関する産学官行動計画」、次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）

### 大学の動向②

- 高校の先進的教育との連携・接続を行う動き  
例：お茶の水女子大学(女子高6校と連携した高大接続関連授業及び課題研究支援プログラム、「新フンボルト入試」(AO入試))

サイエンス、イノベーション分野における将来のリーダーを育成すべく、  
高校と大学の教育・研究を接続し、優れた人材を科学的な課題研究を通じて  
一貫して育成するプロセスを開発・実証する必要性

### 新たな取組のイメージ

### 一貫した人材育成プロセス

高度な科学的能力を備えた将来のリーダーを育成

### ①高校段階

科学的な課題研究を通じ生徒が本質的な問いを主体的に設定し解決策を構想する力を育成するためのプロセスを高大が共同開発

生徒自らが新しい課題を探索・発見し、大学レベルの課題研究の実施へ切れ目なく発展させられるよう、高大協働プロセスを開発

フィールドワークを通じ、生徒が課題発見力、課題解決力を習得する指導方法を開発

科学的課題探究を段階的に発展させ、能力の伸長を評価・促進(①～③)

育成する人材像・能力やそれに基づく育成・評価方法についての共通理解を形成

### ②入試～大学入学までの段階

育成すべき人材像と必要なコンピテンシーの期待水準、評価手法を共同開発し、AO・推薦入試へ活用

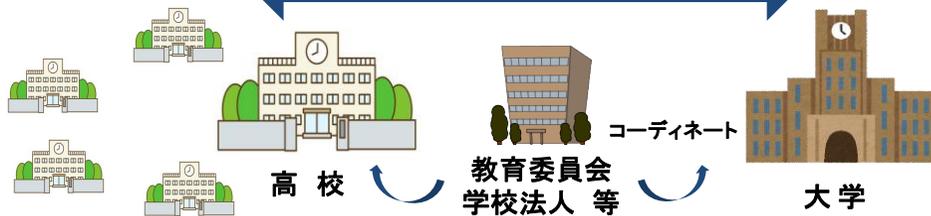
入学までの期間に課題研究の継続支援・研究室へのインターン

### ③大学入学後の段階

高校段階で修めた科目についての単位認定

学年によらない能力レベル別の教育カリキュラムの提供

高校での課題研究等の継続・1年次からの研究室配属



※①～③の要素的活動は例示であり、各学校が特色を生かした科学的な課題研究を通じて一貫した人材育成プロセスを開発する。